

平成 27 年度  
中野区立弥生福祉作業所事業報告

社会福祉法人 正夢の会

## 1. 年間総括

平成 27 年度は 12 名の新規利用があった。当初の計画を上回る速さで利用者が増えた。新規利用者の半数は他事業所からの移行や初めて福祉サービスを利用する方だった。就労継続支援 B 型では定員に達し、生活介護もほぼ定員に近くなった。これは、支援スタッフの利用者・家族への誠実な姿勢が相談支援機関等から評価されていることが大きく関係していると感じている。同時に地域の通所サービスの多くが定員を超えており、受け入れ先が限定してきていることを意味していた。

また、利用者の 1 名の方が都外の施設に入所した。入所施設への移行の過程では通所施設で出来る限りの対応をさせてもらったが、親亡きあとの課題を突きつけられた。

平成 27 年度は、今後のサービス展開を考えさせられる出来事が多くあった。例えば司法、医療、相談、居宅サービス等との他機関との連携である。多様化した支援ニーズに対応するためには連携が必要不可欠であった。

## 2. 事業実施内容

### (1) 事業所概要

|                 |  |
|-----------------|--|
| 事業所名            | 中野区立弥生福祉作業所  |
| 所在地             | 東京都中野区弥生町 4-36-15  |
| 設置者             | 中野区  |
| 開設              | 昭和 62 年 11 月に中野区が弥生福祉作業所として開設<br>平成 15 年 4 月に支援費制度に規定する事業に移行<br>平成 18 年 10 月に自立支援法みなし指定<br>平成 24 年 4 月障害者自立支援法に規定する事業に移行<br>平成 26 年 4 月指定管理者として社会福祉法人正夢の会運営  |
| サービスの種類<br>(定員) | 生活介護 (20 名)<br>就労移行支援 (10 名)<br>就労継続支援 B 型 (45 名)<br>合計定員 75 名   |
| 事業所番号           | 1 3 1 1 4 0 1 3 3 3  |
| 設置根拠            | 障害者総合支援法、中野区立弥生福祉作業所条例   |
| 規模等             | ①敷地面積 1, 4 7 1. 0 2 m <sup>2</sup><br>②延床面積 2, 2 5 1. 8 5 m <sup>2</sup><br>弥生福祉作業所 1, 6 5 2. 8 7 m <sup>2</sup><br>南中野児童館・中野神明学童クラブ 5 9 8. 9 8 m <sup>2</sup><br>③構造規模 鉄筋コンクリート造 地下 1 階地上 3 階<br>④施設内容<br>《地下 1 階》<br>男女トイレ、廊下、階段 |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>《 1 階 》<br/>         玄関ホール、風除室、ピロティ、階段</p> <p>《 2 階 》<br/>         作業室、倉庫、シャワー洗濯室、男女更衣室、男女トイレ、身障者<br/>         トイレ、会議室、医務・静養室、バルコニー</p> <p>《 3 階 》<br/>         事務室、監視室、事務室倉庫、職員更衣室、利用者食堂、作業室、<br/>         調理室、娯楽休憩室、給湯室、男女更衣室、バルコニー、男女トイ<br/>         レ、身障者トイレ、階段、和室、廊下</p> |
| 利用時間 | 午前 9 時から午後 5 時   |
| 休業日等 | <p>①日曜日及び土曜日</p> <p>②国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律 178 号）に規定する休日</p> <p>③1 月 2 日及び同月 3 日まで</p> <p>④12 月 29 日から同月 31 日まで</p>  |

(2) サービス内容

|               |  |
|---------------|--|
| 生活介護          | <p><b>【目的】</b> ①利用者一人ひとりの自分らしい暮らしを支える<br/>         ②本人が得意とするコミュニケーション手段を用いて意思決定支援を大切にする。<br/>         ③社会参加の機会を広げる。</p> <p><b>【内容】</b> ①作業（自主生産品の製造販売、受注加工）<br/>         ②運動、③余暇、④旅行等の行事</p>                     |
| 就労移行支援        | <p><b>【目的】</b> ①利用者が自分にあった仕事を見つけられよう、一人ひとりに合わせた就職準備訓練を行う。<br/>         ②就職準備期間に就職の目的を明確にできるよう支援する。<br/>         ③就職後の職場定着を支援する。</p> <p><b>【内容】</b> ①作業（受注加工）、②ボランティア活動<br/>         ③ビジネスマナー等の講座、④実習、⑤旅行等の行事</p> |
| 就労継続支援<br>B 型 | <p><b>【目的】</b> ①仕事を通じて達成感や充実感を得られるよう支援する。<br/>         ②工賃の向上<br/>         ③音楽活動や造形活動等の表現活動を提供。</p> <p><b>【内容】</b> ①作業（自主生産品製造販売、受注加工）<br/>         ②表現活動（音楽活動、造形活動）<br/>         ③旅行等の行事</p>                    |

### 3. 利用者状況・利用実績

#### (1) 利用者状況

##### ① 年齢・性別（平成28年3月31日現在）

|          | 年齢   |      |      | 性別 |    |    |
|----------|------|------|------|----|----|----|
|          | 男性   | 女性   | 計    | 男性 | 女性 | 計  |
| 生活介護     | 35.9 | 40.0 | 37.5 | 11 | 7  | 18 |
| 就労移行支援   | 33.0 | -    | 33.0 | 7  | 0  | 7  |
| 就労継続支援B型 | 40.0 | 40.3 | 40.1 | 30 | 15 | 45 |
| 計        | 36.3 | 40.2 | 36.9 | 48 | 22 | 70 |

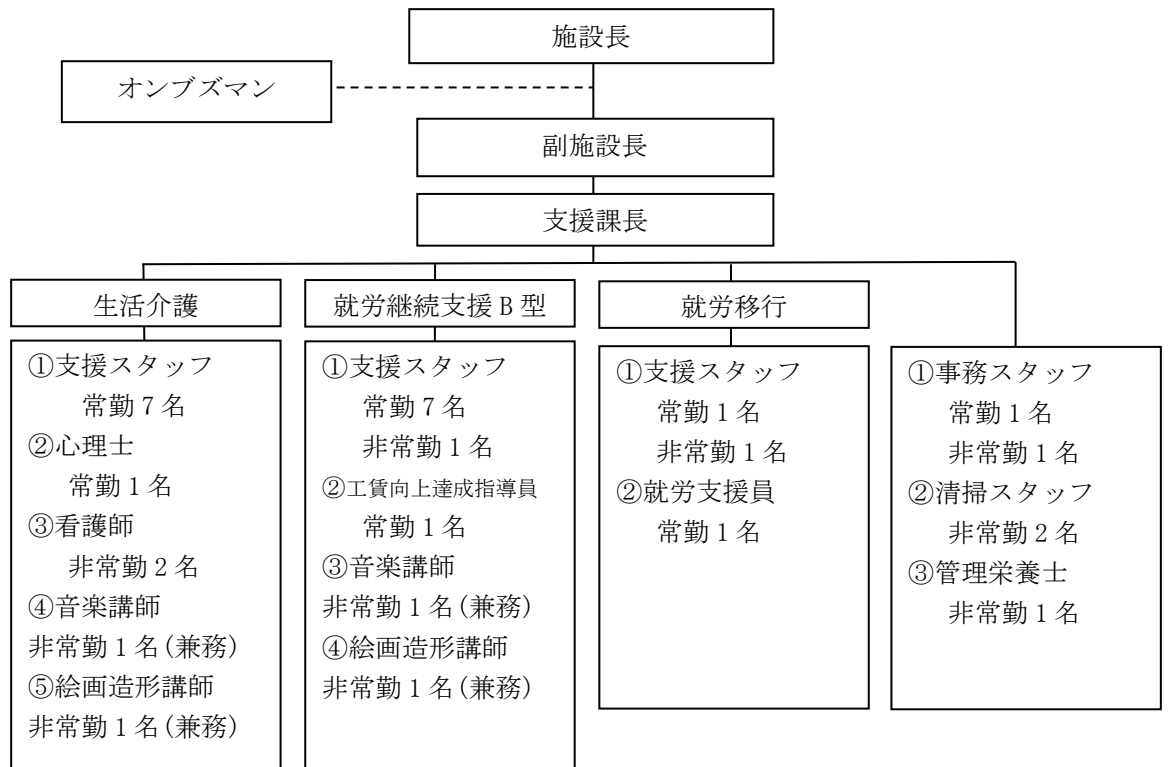
##### ② 居住地（住民登録市町村・平成28年3月31日現在）

| サービス種別   | 中野区 | 武蔵野市 | 調布市 | 計  |
|----------|-----|------|-----|----|
| 生活介護     | 18  | 0    | 0   | 18 |
| 就労移行     | 7   | 0    | 0   | 7  |
| 就労継続支援B型 | 43  | 1    | 1   | 45 |
| 計        | 68  | 1    | 1   | 70 |

##### ③ 障害者手帳（平成28年3月31日現在）

| サービス種別 | 愛の手帳 |    |    |    | 身障手帳 |   |   |   |   |   |
|--------|------|----|----|----|------|---|---|---|---|---|
|        | 1    | 2  | 3  | 4  | 1    | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 生活介護   | 0    | 10 | 7  | 1  | 3    | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就労移行   | 0    | 0  | 2  | 5  | 0    | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就労継続B  | 0    | 15 | 17 | 11 | 1    | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 計      | 0    | 25 | 26 | 17 | 4    | 8 | 0 | 0 | 1 | 1 |

(2) スタッフ数 (組織図)



(3) 利用実績

|      |       | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 生活介護 | 登録者数  | 19    | 19    | 19    | 19    | 19    | 19    |
|      | 延利用者数 | 344   | 315   | 385   | 372   | 339   | 281   |
| 就労移行 | 登録者数  | 3     | 5     | 4     | 4     | 4     | 5     |
|      | 延利用者数 | 68    | 82    | 76    | 70    | 81    | 91    |
| 就労B型 | 登録者数  | 44    | 44    | 44    | 44    | 44    | 44    |
|      | 延利用者数 | 795   | 741   | 863   | 857   | 772   | 742   |
| 計    | 延利用者数 | 1,207 | 1,138 | 1,324 | 1,299 | 1,192 | 1,114 |

|      |       | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 計      |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 生活介護 | 登録者   | 19    | 19    | 19    | 19    | 18    | 18    |        |
|      | 延利用者数 | 305   | 298   | 311   | 296   | 308   | 363   | 3,917  |
| 就労移行 | 登録者   | 6     | 6     | 6     | 6     | 7     | 7     |        |
|      | 延利用者数 | 102   | 95    | 94    | 109   | 124   | 126   | 1,118  |
| 就労B型 | 登録者   | 44    | 44    | 43    | 43    | 45    | 45    |        |
|      | 延利用者数 | 834   | 779   | 752   | 791   | 841   | 928   | 9,695  |
| 計    | 延利用者数 | 1,241 | 1,172 | 1,157 | 1,196 | 1,273 | 1,417 | 14,730 |

※登録者は、毎月1日現在

#### 4. 各サービス内容の反省点

##### (1) 生活介護

###### ①利用者一人ひとりの「自分らしい暮らし」を支える

個別支援会議を毎月1回開催し、毎回一人の利用者の支援を検討する機会を設けた。事例検討のフォーマットや特性把握シートなどを活用し、具体的行動の背景・要因を共有したうえでご本人の強みを活かした支援方法を組み立てた。また、スタッフがご家族との面談で聞き取りをした家庭での状況なども共有し、24時間365日の生活支援を意識した視点を持って議論を重ねた。具体的な例として家族力が低下して自宅生活が困難になった方の支援を考える際には、ご兄弟や、短期入所事業所、区ケースワーカーなど他機関との連携を行い現在と将来の「その人らしい生活」を見据えながら一緒に考えた。

今後も変化していく「自分らしい暮らし」を日々の支援と個別支援会議を通じて利用者と一緒に考えていく。しかし、個別支援計画で立案した目標に基づいた取り組みをスタッフ間で共有し提供することは十分に出来なかった。また、アセスメントの見直しを十分に行うことが出来ず次年度の課題となった。

###### ②意思決定を支える

作業提供時に写真や実物、ジュスチュアなどを用いて利用者本人が出来るだけ意思決定をしやすい配慮を行った。結果、それまで受け身で指示的な参加になっていた利用者が自ら「〇〇の作業をやってみます」と積極的に取り組む場面も見られるようになった。また、選択給食の提供時にも調理された実物を提示して選ぶ機会を設定するなど、「意思決定」を支える配慮を行い、食事が楽しくなったと嬉しそうに語る利用者もいた。1例として母親、兄、ご本人の3人で暮らしている方がご自身の将来について、「家から出て暮らしたいけれど家族の事も心配でどうしたらいいか」といった悩みに対して、グループホームの見学や一人暮らしという選択など様々な情報提供を行った。また、葛藤しているご本人の気持ちを汲み取るべく、日々の活動を通してさりげなく会話をする機会を設けて、意思決定に向けての支援を積み重ねてきた。意思を決めきれなくても、渦中にある葛藤に寄り添いながら一緒に考えていくことも意思決定支援の大切な時間だと感じた。

次年度も様々な要望に対して意思決定を支えていけるよう、利用者の日々の会話や行動に寄り添い記録し、スタッフ間で障害特性の把握や抱えている悩みや葛藤、喜怒哀楽の状況を共有しながら考えていきたい。

個別の障害特性に対する配慮が十分に行えなかった面もあり平成28年度の課題となった。

###### ③仕事とその他の活動を通じた社会参加

定期的に受注している作業を通じて、社会とつながっている実感ややりがいを感じながら取り組んできた。受注作業や自主生産品の注文状況や納品状況を朝礼・終礼で利用者と共に共有してきた。作業の進捗状況を視覚的に分かりやすいようカードを貼り出すなど伝え方にも配慮をしてきた。「納品に向けて来週も頑張ろう」など前向きな発言も聞かれるようになった。

近隣の農園ボランティアグループ(弥生農園様)との連携を行い、春から秋にかけてベランダにて野菜や植物をプランターで育ててきた。毎日の水やりや、収穫など季節を感じる

活動にもつながった。また隔週程度で弥生農園様へ訪問し関係性を深めてきた。

散歩活動を通じて近隣の路地や公園の清掃活動(ゴミ拾い)を行った。すれ違う一般の方々に積極的に挨拶をしながら取り組んでいく中で、「おはよう、今日もご苦労様」など挨拶と労いのお声掛けを頂ける場面も生まれてきた。利用者からも大きな声で挨拶して関わりを持つ場面もみられ社会との繋がりを感じる時間となった。

近隣の高齢者施設やよいの園様主催のイベントや生産品販売へ参加するなど少しずつではあるが地域の機関との連携をしてきた。平成 28 年度はさらに他機関の施設や学校などとも連携し地域との共生を目指して取り組んでいきたい。

#### ④活動内容の見直しと検討

年度当初に新規利用者を中心に日々の行動記録をもとに活動内容を検討するための情報収集を行った。しかし全員分の要望調査をすることは出来なかった。

夏時期での体の衛生面での配慮が必要な方に対しては足浴やドライシャンプーでの洗髪など行ってきた。また、近隣のプールを利用できないか検討したが実施には至らなかった。

自宅での入浴困難な状況になりつつある利用者に対して日中入浴が出来ないか検討を始めた。区と協議しシャワー室内の段差の解消や、暖房設備の設置、給湯器の交換、手すりの設置、タイル貼り換えなど、安全に利用できるよう改修工事を行った。

#### ⑤環境の見直しと検討

新規利用者が多かったこともありグループの再編を行った。C1 グループでは個別活動を中心に組み立てるように、作業スペースの構造化を行った。自立課題の提供に努めるとともに、受注作業においても個別の活動として提供してきた。環境設定に加えワークシステムを取り入れたことで、集中して取り組める時間も増え作業量も上がった。C2 グループでは新規利用者の特性把握を中心に行うとともに、パソコンでの文字入力をする活動や、お話しする時間など必要に応じて一対一で行う活動を積極的に取り入れた。

スペースの有効活用や活動の提供方法を工夫する等の取り組みを重ねたが、利用者数と利用者特性から、活動スペース拡張が課題として残った。

また、平成 28 年度の新規利用者の受け入れに向けて、スムーズな移行ができるように特別支援学校を訪問し生活の様子や特性の理解に努め情報を共有した。

#### ⑥将来に向けた支援

個別面談時に作業所内での支援計画の説明に加え、将来に対する意向を伺った。それぞれの事情に合わせて福祉サービスのご案内や、短期入所事業所への見学同行なども積極的に行った。また、相談支援事業所や他事業所との連携も密にとり必要に応じて担当者会議を開催するなど情報共有を図ってきた。それまでサービス利用を躊躇していた方や利用回数を増やした方など、現在の生活はもちろん将来に向けての支援に繋がった。平成 28 年度も関係者と良好な関係を築き将来に向けた支援を支えていきたい。

## (2) 就労移行支援

### ①一人ひとりの働く目的の明確化・アセスメントと職業準備の重視

アセスメント・企業実習を経て平成 27 年度は 2 名の利用者が就職に結びついている。具体的に以下の取り組みを行った。

- ・週に一度の個別面談を実施。その都度、利用者本人と個別支援計画の内容を確認することで課題・目標の達成に繋がった。
- ・自己評価・他者評価を比較して「自分を知る」ということを重点的に行った。
- ・就労支援機関やハローワークを通じ定期的な企業見学の間を提供した。
- ・障害者福祉手帳を活用した生活、金銭管理等のプログラムを行った。

#### ②就労先への高い定着率

平成 26 年度平成 27 年度合わせて 3 名の方が 6 ヶ月以上継続して就労をしている。フォローアップに関しては具体的に以下のことを行った。

- ・定期的な企業訪問（2 ヶ月 1 回～1 ヶ月 2 回）
- ・就労後の定期的な来訪面談
- ・就労先との定期面談（月 1 回）
- ・就労支援機関との引き継ぎ

#### ③新規利用者の確保

平成 27 年度は相談支援事業所・区役所を通じて計 5 名の受け入れを行った。具体的に以下の取り組みを実施した。

- ・新規パンフレットの作成
- ・就労継続 B 型利用者への働きかけ

平成 28 年度も最優先項目として取り組んでいく。

#### ④実習先の確保

特例子会社での体験実習を 1 件実施したが、今後の固定の実習先としては確保できていない。平成 28 年度も継続して取り組んでいく。

#### ⑤資格取得支援

具体的な仕組みの構築は達成できていない。必要に応じて段階的に進めていきたい。

### (3) 就労継続支援 B 型

#### ①工賃向上

平成 27 年度は、工賃向上を目指し以下の事項に取り組んだが、平成 27 年度の平均工賃月額額は 9,000 円にとどまり、目標を達成することはできなかった。

##### (ア) 職員の意識の統一

日々の作業場面や振り返りで作業の進捗や検品ポイントの確認などを行った。また、年度後半からは、それぞれの取引業者担当を職員に割り振り、責任感の醸成も行った。

##### (イ) 利用者へアプローチ

作業スペースの切り出しを試行的に行い、一部の利用者にはあるが作業に集中できる環境設定を検討する素材ができた。

##### (ウ) 保護者の理解と協力

ご家族から自主生産品注文を多くいただくことができた。また、求人広告等からの情報も継続していただいた。

##### (エ) 工賃向上計画の作成

プロジェクトチームを作り、検討を行い、試行できることについては試行したが、抜



本的な改革には至らなかった。今回の検討を踏まえ、平成 28 年度には職員全員で工賃向上に向けて検討し、実践していくものとする。

②一般就労への移行

一般就労への移行が作業に取り組む強い動機付けとなっている利用者の存在もある。そのため、上記①（イ）と合わせた形で一般就労を意識した作業環境・作業場を試行的に提供することも行った。

③自立生活・社会生活

作業やその他活動を通し、他者との関係等（距離感含め）、生活に必要なとされる事などを身に付けられるように利用者一人ひとりに合わせ支援した。

④表現活動（クラブ活動：専門の外部講師による活動）

（ア）音楽活動

毎月 1 回ではあったが、外部講師による楽器演奏等を行い、自己表現、コミュニケーション、リラクゼーションの場を広げる事ができた。活動を通して利用者が自分自身を自由に表現し、仲間との共感や楽しみとなる機会となった。

また、デュオフェスティバルで活動発表の場を設け、短時間ではあったが、参加する利用者一人ひとりが「主役」になれる機会となった。

（イ）造形活動

毎月 1 回ではあったが、外部講師により活動内容等の指導を受け、楽しみながら創作する事の喜びを感じることができる機会を提供できた。造形活動を通じて、豊かな感覚や感性が発揮できる表現活動の場となった。創作した作品は、施設内での展示を行い、達成感や喜びを感じることができる取り組みとなった。

（ウ）運動

各人月 1 回、散歩等の体を動かす活動時間を持った。心身のリフレッシュ、健康づくりの機会となった。

（4）食事サービス

①摂食嚥下の知識を深めるために、外部機関の実施する研修に継続的に参加した。研修内容は、職員会議で共有を図った。

②管理栄養士と看護師による摂食機能評価を行った。

③毎月食事サービス会議を実施した。利用者一人ひとりの嗜好や食事状況を確認し、献立に反映した。

④残菜調査を年 2 回実施した。

⑤年間食数

| 4 月   | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   |        |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 1,187 | 1,075 | 1,291 | 1,252 | 1,176 | 997   |        |
| 10 月  | 11 月  | 12 月  | 1 月   | 2 月   | 3 月   | 計      |
| 1,174 | 1,088 | 1,090 | 1,123 | 1,189 | 1,333 | 13,975 |

（5）送迎サービス

①全職員を対象に安全運転講習会を実施した。平成 27 年度は職員が講師を担当した。

②安全運転を徹底するため、添乗職員により運転手評価を継続し実施した。

#### 5. 権利擁護・虐待防止への取り組み

障害者の権利擁護は、私たち支援者の基本であり、常に立ち返る必要がある。平成 27 年度は、以下の内容で権利擁護・虐待防止研修を実施した。

第 1 回（平成 27 年 6 月 27 日）

（1）過去の虐待事件の説明

（2）意思決定支援について

（3）施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト（職員セルフチェックリスト）の実施

第 2 回（平成 28 年 1 月 25 日）

（1）自閉症の学習スタイルについて

#### 6. オンブズマン活動

①オンブズマンが保護者からの要望などを直接聞き取る機会を設定した。

②法人内で各施設担当のオンブズマン交流会を実施した。

③作業所連絡会の学習会を中心にオンブズマンが参加した。